

ボール投げ^なをしていて、
まどガラスをわってしまった。

正直に 言えない心

しかられるのがいやだから、
知らなかったことにして、
だまっていよう。

正直に言おう とする心

自分が失敗してしまったこと
だから、本当のことを
きちんと言おう。

どうしよう



●こちらが勝つと、どのような気持ちでしょう。

●こちらが勝つと、どのような気持ちでしょう。

「心のつな引き」で自分と向き合おう

(4) 正直に明るい心で

自分に正直になれば心はとても軽くなる

すなおな心

「正しいことをしたい」という心を大切に
して自分の心に真^まっすぐに向^むき合^あうと、気
持^もちがすっきりとして、心が軽くなりませ
んか。

すなおになれない心

「自分に都合^{つごう}が悪い^{わる}から」「失敗^{しっぱい}をみとめ
たくないから」「本当のことを言うのがこ
わいから」といって、すなおになれなかつ
たり、ごまかしたりすると、心が暗^{くら}くなり
ませんか。



自分の中の正直な心を見つめよう

よく使う言葉から考えてみよう

自分の中にある正直な心を
引き出していく言葉

「ごめんね。」

「ありがとう。」

「それは、わたしです。」

「それはだめだよ。」

「よかったね。」

自分はどちらの言葉を

よく使っているだろう。

●自分の心に正直に行動できてうれしく
感じたことはありませんか。そのときの
気持ち（きもち）をふり返（かえ）ってみましょう。



自分の中にある正直な心を
おおいかくしていく言葉

（知っていても）「知らないよ。」

（見ていても）「見ていないよ。」

（思わなくても）「そう思うよ。」

（していても）「わたしだけじゃないよ。」

（関係があるのに）「わたしには関係ないよ。」

正直な心をもった人をさがそう

お話で

●教科書や図書室の本などの中から、
正直だと思った人をさがしてみま
しょう。

その人のどのような所（ところ）が正直だと思
ったのかも書きましょう。

生活の 中で

●日々の生活の中で、この人の行動
は正直だなと思ったことはありません
か。

その行動を見て、どのようなこと
を考えましたか。

正直な人

どのような所

正直な行動

その行動を見て考えたこと

正直な人

どのような所

正直な行動

その行動を見て考えたこと

風のふく、寒い日でした。

「おい、エイブ。今夜は早く食事をしてねようじゃないか。」

主人のオフエツトさんが、言いました。

「そうですね。今日のかん定をすませてから、食事にしますよ。」

エイブは、そのお店のわかい番頭さんです。紙切れにいったい字を書いて、売上金を調べています。

もう、とつくに日がくれました。夜になると、川に囲まれた町は、すっかりさびしくなります。町といっても、家がたった十五けん、百人くらいしか住んでいないのです。

今から約二百年前、アメリカのミシシッピ川の周りに散らばっているいなか町は、たいてい、そんなものだったのです。

オフエツトさんの店は、さとう、塩、かま、くわ、ぼうし、くつ、服など、何でも売っていました。近くの農家の人たちが、ここへ来て、必要な物を買っていきます。

(変だなあ、かん定が合わないぞ。六セント半もあまってしまふ。)

エイブは、首をかしげました。それから、おでこをたたいて、

「あ、そうだ。おつりをまちがえた。」

と、つぶやきました。

昼間、布地をたくさん買っていった女性のお客があります。その人

にあげたおつりが、少なすぎたのです。

今まで、気が付かないでいました。

「大事なお客様だ。今日のうちに、返してこよう。オフエツトさん、ちょっと

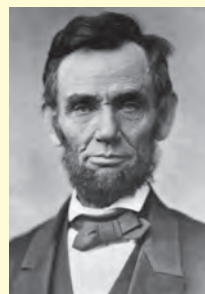
そこまで行ってきます。」

エイブはそう言って、オーバーを引っかけました。

六セント半のおつりをポケットに入れ、外へ出ました。冷たい風が、ヒューヒュー、体にしみます。でも、長い足で、どんどん夜道を歩きました。

この辺の農家は、広いあれ地や森の中に、ぽつんぽつんと建っています。ちょっとそこまで——そう言いましたが、なかなか着きません。なぜなら、昼間の女性は、十キロもはなれた農家の人だったからです。着くまでに、たっぷり二時間かかりました。





エイブラハム・リンカーン
(一八〇九〜一八六五)
第十六代アメリカ合衆国大統領

アメリカ、ケンタッキー州で生まれたエイブラハム（エイブ）・リンカーン。まずしい生活にたえ、家族の死を乗り越えた少年は、第十六代アメリカ合衆国大統領になりました。



ラッシュモア山の
四人の大統領の像

右はしがリンカーン



リンカーン像と
リンカーン記念館

けれど、エイブは、にっこり笑って、「すみませんでした。この次は、気を付けますから、どうぞよろしく。」と言うと、夜ふけの道を、真っすぐ帰っていききました。



「こんばんは。ぼく、オフエット商店のエイブです。」
エイブは戸をたたきました。

「まあ、今ごろ、何のご用？」

女性が、不思議そうに出てきました。

「あのう、実は、お金をまちがえたんです。昼間、布地を買ってくださいましたね。あの時の、おつりですけど……。」

「じゃ、あといくら、差し上げればよろしいの？」

その女性は、てっきり、お金が足りないのだと思いました。

「いいえ、差し上げるおつりが、六セント半少なすぎたんです。ここに、持ってきました。」

エイブは、あわててポケットからお金を出しました。

「あれまあ、あなた、それだけのことで、こんな寒いばん、ここまで来てくださったのですか。町の人が、あなたのことを、正直エイブ」

だなんて言っていましたけど、本当にまあ。」
女性は、ひどくおどろいた様子で、何度も、エイブを見上げました。六セント半といったら、今の日本のお金に直して、六円ほどなのです。